

文学特別展

有吉佐和子と丸川賀世子

— 二人の作家の友情 —



2018

2019

12月16日(日) ~ 2月8日(金)

[開館時間] 9:30-17:00

[休館日] 月曜日(ただし12月24日, 1月14日は開館, 翌日休館)
年末年始(12月28日-1月4日)

[会場] 1階 特別展示室・3階 収蔵展示室

[観覧料] 一般 510(400)円
高校・大学生 350(280)円
小・中学生 250(200)円

()内は20人以上の団体割引料金。小・中・高校生は土・日・祝日と冬休み期間中は無料。高齢者(65歳以上)と各障がい者手帳をお持ちの方は半額。

[主催] 徳島県立文学書道館

[後援] 四国放送
徳島新聞社
NHK 徳島放送局



言の葉ミュージアム

徳島県立文学書道館

〒770-0807 徳島市中前川町2丁目22-1
ホームページ <http://www.bungakushodo.jp>

Tel. 088-625-7485 Fax. 088-625-7540
E-mail kotonoha@bungakushodo.jp



有吉佐和子 (1931-1984年)
和歌山市出身

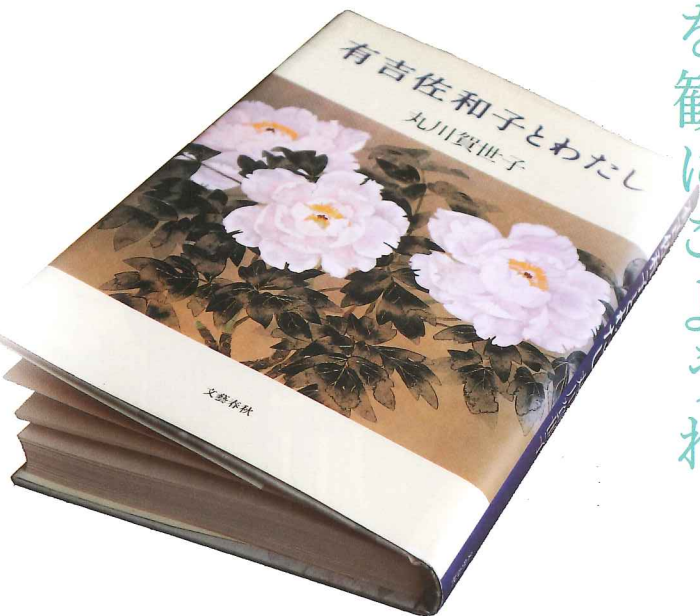
高度経済成長に沸く日本でいち早く老いの問題を突きつけた『恍惚の人』、人間の生命を脅かす環境破壊に警鐘を鳴らした『複合汚染』など、次々と大ベストセラーを発表した有吉佐和子。ほかにも『紀ノ川』『華岡青洲の妻』『香華』など歴史や伝統芸能を扱った幅広い創作で「才女の時代」と呼ばれました。鋭い発言と旺盛な行動力で常に脚光を浴び続けた時代の寵児でしたが、親友・丸川賀世子(徳島市出身)に見せたその素顔は、子どものように素直で、不器用で、そしてはかないものでした。

有吉の死後約10年を経て書かれた丸川賀世子『有吉佐和子とわたし』をひもとき、2人の生き生きとした時間を今日に再現します。

ねえ、丸さん。

おばあさんになっても

一緒に野球を観にこようね。



丸川賀世子 (1931-2013年)
徳島市出身

2人の写真は共に「週刊読売」昭和38年12月29日号グラビア特集「文学賞のヒロインたち」より

丸川さん、とてもいい文章を書いてくださいました。めくって二枚目あたりから、もうぐいぐい引き込まれていき、そして夢中になりました。途中幾度も泣きました。小生にとつて、生涯の宝物となるような作品とのめぐりあわせを感じ、嬉しくなりません。

文藝春秋編集者・高橋一清の手紙より



関連イベント

① トーク「マルさんの思い出」



ありよし・たまお 作家・大阪芸術大学教授。有吉佐和子の長女「雛を包む」「恋するフェルメール」「美しき一日の終わり」など著書多数。

12月16日(日) 14:00-15:30

[講師] 有吉玉青氏
[会場] 2階 講座室
[定員] 先着80人

はがき・Fax・メールのいずれかに住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号、「有吉玉青トーク希望」とご記入の上、お申し込みください。当館1階受付でも申し込みます。

② 朗読会「丸川賀世子著『有吉佐和子とわたし』を読む」

1月12日(土)
14:00-15:00
[会場] 2階 講座室

※申し込み不要

*ロビーでは、石原慎太郎が助六、三島由紀夫が意休、曾野綾子が揚巻、有吉佐和子が白玉を演じた文春文士劇「音菊文春歌舞伎」(昭和33年)のダイジメスト映像を放映します。
*3階収蔵展示室では、浅草の喜劇王・曾我廼家五九郎、明治の奇術師・松旭斎天一、女義太夫・小米などを描いた丸川賀世子の小説世界を紹介いたします。

交通アクセス (JR 徳島駅から)

- ◆徒歩 約15分
JR 徳島駅西側のポッポ街を抜けて右折。踏切と助任川を越え、3つめの信号交差点を右折して約300m。徳島中学校東隣。
- ◆バス
[徳島市営バス] 7番乗り場「川内循環線(右回り)」に乗車。「吉野本町2丁目」で下車し、徒歩約5分。
[徳島バス] 2番乗り場「前川経由」に乗車。「吉野本町2丁目」で下車し、徒歩約5分。
- ◆タクシー・自動車 約5分
国道192号線、藍場町交差点を北進、助任川を渡り、4つめの信号を右折して約300m。
- 駐車場
当館北側にあります(43台・大型バス2台)。

